

# ダンジョン靴



トラップによりライオ  
ス一行とはぐれてしま  
ったマルシルは全ても  
って運が悪かったと言  
わざるをえない：そし  
て更に運の悪い事に普  
段なら大して脅威でも  
ない森ゴブリン程度し  
かない筈のこのダン  
ジョンに何処からかタ  
チの悪いゴブリンども  
が流入していた事だ：

離しなさいよ！

いやあ



最悪だったのは奴らが  
他種族にも欲情すると  
いう普通ならあり得な  
い性質を持ったゴブリ  
ンだった事：抵抗も空  
しく数に敗れ去り

う……う

うぐ

んっ♡

ん♡

マルシルも他の牝達と  
同様に為す術も無く貞  
操を奪われ陵辱され続  
ける事になる





いやあ…  
外に…

お願いだから

あ…  
かえ…  
中に…膣内に  
出してえ

あ…  
出てる…

私の中に  
熱へのがみ…

奴らは群れをなしてマルシルを犯し続ける…一匹が果てても次のゴブリがいけり勃つペニスでマルシルを犯す…その次も…その次もマルシルの性器に欲望を吐き出し続けるようやく全てのゴブリンが吐き出す頃には最初のゴブリが回復して再びマルシルの牝穴を穿つ

クッ  
クッ  
クッ

果てる事のない陵辱にマルシルの牝穴は次第に  
馴染み、子種を搾り取るのに最適な動きをする  
ように開発されて行く

幾日が過ぎたのか  
判らなくなった頃！

加ボツ

オマンコ  
いゝっ…

おッお



イクッ♡

イクッ♡

マルシルの身体は自らゴブリンの  
子種を欲し、快楽とともに受けい  
る様になっていた！

マルシルはその後  
通りすがりの剣士に  
よって救出される事  
になる――

その男は  
凄まじい  
強さで  
ゴブリンを  
屠り続け  
瞬く間に  
辺りの  
ゴブリンを  
一掃する

だが――他の魔物や狂乱の  
魔術師に興味はないと言  
い放ち、再びゴブリンを求  
めてダンジョンを去って  
いってしまった。



ゴブリンがマルシルに与えた暇は決して小さくなかった：マルシルは種族の寿命差は子種の改良によって無くす事が出来る筈だと考えるようになり、魔法の力を駆使し、逆レイプまがいの行為を始めるようになったってしまったのだ

あ、♡

お、お

は♡

いいん♡

止まらない……





イッ

イッ

チンポが

知ッ知ッ

してさう♡

知ッ知ッ

知ッ知ッ



こんなには  
固くしている  
のだ

チルチャックを次は  
当然人間種である  
ライオスにも魔法を使う  
マルシル：ゴブリンに開花させ  
られた肉体は、既に歯止めが効  
かなくなっているのだ：

手伝……って……



トールマン  
との身体の  
相性は抜群  
であり、他  
の種族との  
交ぐ合いで  
は得られな  
かった多幸  
感に溢れて  
れていたのは  
マルシルにとつて  
発見であった…



ハハハ

ハハハ

ハハハ  
ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

スッ

スッ



マルシルは先立たれると知りながら、なぜ母が父と結ばれる道を選んだのか...その理由を理解できた気がするのだ...  
た...